

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.165 2009.11.1



もくじ

誌上博物館◇明治三十七、八年戦役記念館開館前の様子 —「史料開智学校」の記述から—(2)……………	2-3
「松本市基幹博物館 基本計画」抜粋……………	4-5
博物館のノートから◇子供たちの疑問に学ぶ 1 ………………	6
第3回「明治の授業を体験しよう」……………	7
博物館TOPICS・ガイドコーナーはんてんぼく……………	8

企画展「火の用心と消防」

松本市立博物館

会期 平成21年11月15日(日)～12月20日(日)
開館時間 午前8時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
観覧料 大人200円(180円)・小人100円(90円)
※()内は20名以上の団体料金

明治三十七、八年戦役紀念館開館前の様子

—『史料開智学校』の記述から—(2)

5 紀念館開館に向けて

『あなたと博物館』148号（2007年1月）では『史料開智学校』(1)の記述から松本市立博物館の前史として、明治三十七、八年戦役紀念館設立前の様子をおおづかみに紹介しました。今号では、福島安正フィーバーに沸いた明治39年（1906）5月20日（「日露戦役ハ古今東西未曾有ノ大戦大勝利ニシテ今回当町ニ開会セル三日間ノ晴天及人出ハ恐ラクハ空前ナラン」〔校長日誌〕）以降の動きを追ってみましょう（以下、『校長日誌』からの引用を〔校〕、『男子部日誌』からの引用を〔男〕とします）。

5月21日は「本日ハ本校生徒及付属生全部ニ紀念館ヲ参觀セシム 沖氏ト共ニ熊本済々校ニ学ビシ熊本（ママ）県三池郡第二大牟田尋常小学校長大石一氏來校沖氏ノ遺物ニ接シ感涙ニ咽ビ氏ノ素状ヲ語リタリ」〔校〕、翌22日は「紀念館片附ノタメ午前一時間限り」〔校〕とあります。沖氏とは日露戦争の際にロシアで刑場の露と消え憂国の志士として知られた沖禎介のことです。22日は授業を1時間で切り上げ、先生たちが懸命にもらもろの整理をしたのでしょうか。



沖禎介遺品などに付けられた木札

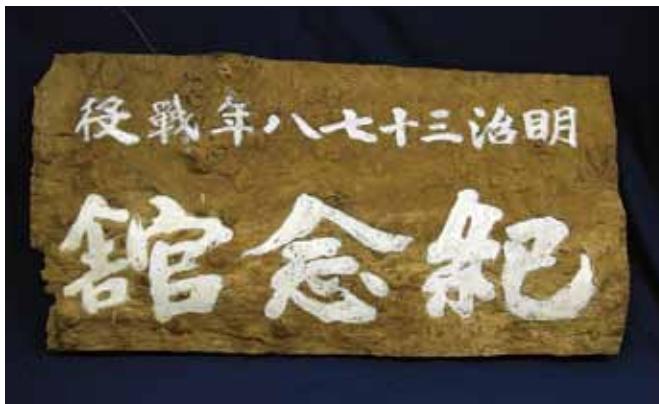
24日には「本日紀念館建設地固メヲナス」（朱）〔校〕、6月に入ると11日「紀念館〔（朱書）ノ〕建始メヲナス」（朱）、「〔欄外〕紀念館ノ建始」〔校〕、13日「紀念館素立成ル」〔校〕とあります。これまで校舎の一室をあてていた紀念館は、6月11日から建て始められたようです。

さて、ここで少し資料の動きなどをみてみましょう。6月30日「藩書籍類 三百四十七部 六千七百九十六冊図書館書籍類 千八百八部 五千四百五十四冊」〔校〕をはじめ、7月11日「故沖禎介氏ノ嚴父寄贈品本日到着」〔校〕、8月17日「當口兵站部発ニテ校長ヨリ砲丸壱個薬筒一本砲丸破刃（ママ）

一個送到アリタリ」〔校〕などの記述があり、次第に資料が充実した様子がわかります。

7月下旬、24日には清国に滞在中の「福島將軍ヨリ職員生徒へ宛暑中見舞ノハガキ」〔校〕が届き、28日には「福島將軍ヨリ厚意ヲ謝ストノ札状」〔校〕が届いています。8月9日には「在京新聞記者等探勝隊ノ一行小里町長ノ案内ニテ紀念館ヲ視察セリ」〔校〕とあります。紀念館の宣伝のために小里町長自らマスコミ関係者を案内したようです。昔も今も、マスコミへの周知は大切ですね。実感です！来客は相次ぎ、11日に「平林部長ノ案内ニテ細川県属湯本郡視学、東京女子手芸教育会主事田中晋氏紀念館」〔校〕を視察し、18日に松本に足を運んだ久邇宮殿下は翌19日に小学校と紀念館を見学し、「講堂ニ陳列セル紀念品御覧アリ後唱歌教室内書画骨董古器物等御覧アリ」、「御機嫌ウルハシク」〔校〕帰館しています。そのときの詳しい様子は同日の『男子部日誌』に述べられていますが、ここでは略します。

8月29日「時間後男子部ニ紀念館委員会開会」〔校〕、翌9月1日には「明日ヨリ松本町戦病死者忠魂碑建設ノ目的ヲ以テ戦争パノラマ会ヲ神道ニ開会同会ノ希望ニヨリ紀念館品十数点を出品陳列ス」〔校〕とあります。2日から神道へ10数点の資料を持って行き、「戦争パノラマ会」に陳列しました。これは、いわば明治版？移動博物館、出張博物館といったところでしょうか。上旬の日誌をみると、紀念館開館準備のため関係者が多忙をきわめていることがわかります。7日に「校長役場へ紀念館開館準備協議トシテ出張」〔校〕、翌8日「午前九時学務委員会ヲ役場ニ開会紀念館窓ノ修築（略）ノ件ニツキ協議後更ニ一同ニテ紀念館ヲ視察」〔校〕、15日「午前九時役場ニ学務委員会開設 紀念館内陳列品ニツキ（略）町長、校長出席、春日、細萱主任トシテ出席陳列品ヲ整理監督スルニ決ス」〔校〕とあります。18になると「校長郡役所、役場へ大会及紀念館開館ニ関シ（略）本日ヨリ紀念館陳列準備ニ着手」〔校〕し、翌19日に「春日、細萱二学務ハ紀念館準備ノタメ來校紀念館額面掲額（金井住山 山口権三 秋山熊十郎）」〔校〕とあります。この額面は長いあいだ博物館の収蔵庫に眠っていましたが、平成18年7月に開催した特別展「博物館100年モノ語り」に展示公開し話題を呼びました。なお、今年の「松本市博物館の日」関連企画展「博物館コトハジメ」にもメイン資料のひとつとして展示しました。



記念館額面

6 明治三十七、八年戦役記念館の開館

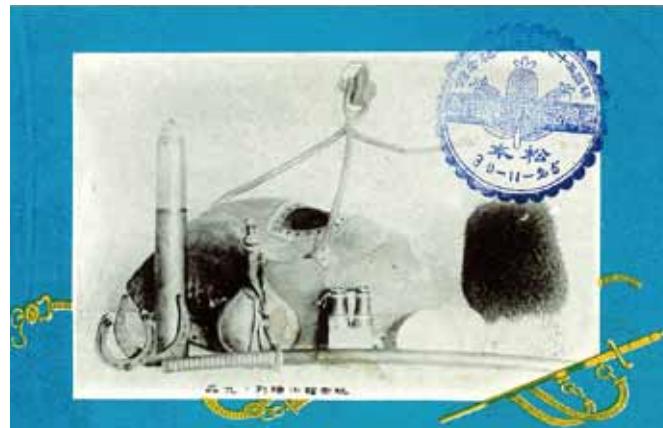
9月21日はいよいよ明治三十七、八年戦役記念館の開館式。当日は「記念館開館ニツキ授業二時間限り」〔校〕で、午後1時30分に記念館樓上で式が始まり、君が代斉唱のあと小里町長の式辞、来賓である矢澤米三郎松本女子師範学校校長の祝辞、三村校長の挨拶が続きました。閉会後、「直ニ記念館前ニ於テ一同撮影講堂ニ於テ茶菓ノ饗応アリ」〔校〕とあり、来賓は「役場員学務委員町會議員学校医各學校長郡長郡視学等無慮百二十余名」〔男〕に及んだようですから何やら賑やかそうな光景が浮かびます。また『信濃毎日新聞』(2)は「一昨二十一日午后一時、松本小学校附属記念館の開館式を挙ぐ、来賓水上郡長、矢澤女子師範校長、町會議員無慮百名、管理者たる小里町長登壇記念館建設に関する報告、矢澤女子師範校長の祝演、三村小学校長の謝辞にて閉場」と報じています。日誌や新聞報道からすると、このような松本町を挙げての開館式は、記念館は単に小学校附設の施設というよりも、すでに小学校や教員達から離れて、実質的に町立博物館としての位置づけがされていたのでは、とも思われます。



明治三十七、八年戦役記念館（手前）と小学校校舎

松本町では、22日「本日ヨリ向三日間記念館ノ縦覧ヲ許」〔校〕し、24日まで公開しています。入館者はちなみに22日1,038人、23日945人、24日1,176人の合計3,159人にのぼっています。27日には「記念館ノ縦覧ヲ午後三時ヨリ四時ノ間」と定めています。開館当初の収蔵資料数は紀念品及戦利品1,091点、図書1,808部・5,454冊、他に藩書347部・6,796冊、標本1,088点（『校長日誌』9月21日）と15,000点近くに達しています。これらのうち陳列された点数はわかりませんが、入館者は十二分に堪能したことでしょう。

11月25日には日本赤十字社長野県支部第4回総会が松本城本丸広場で開かれました。赤十字社の総裁は閑院宮載仁親王で、総会を終えて午後1時30分に記念館を視察しています。三村校長の先導で館内を視察した総裁は時折り「ア、コレハ雷鳥カ」「ヨク集メタリコレハ一般ノ人ニモ見セルカ」「一般人士ニ縦覧セシム際ハ參觀者多数アルカ」等々、質問をしたあとに玄関前で植樹を行いました。その後、「御機嫌麗シク女子師範学校余興所」へ足を運んでいます。



記念館内陳列ノ九品／閑院宮御臺臨紀念絵はがき

暮れも押し迫った12月27日には記念館の開館が官報（3）に告示されています。内容は「○學事

明治三十七八年戦役記念館ノ概況 長野縣松本町松本尋常高等小學校内ニ設置シタル明治三十七八年戦役記念館ノ概況左ノ如シ」として記念館開館までのくわしいいきさつが述べられています。

(続く)

(館長補佐／窪田雅之)

註

- (1)『史料開智学校』第1巻（昭和63年）には明治19年度から41年度までの学校日誌が採録されている。
- (2)『信濃毎日新聞』明治39年9月23日付
- (3)官報7050号 明治39年12月27日付

「松本市基幹博物館基本計画」抜粋

はじめに

現在の市立博物館は、施設が開館してから40年以上経過します。その間、多くの資料を収集してきたため収蔵庫は満杯状態で、資料を寄贈していただく申し出にも応えきれない状態です。施設も各所に老朽化がみられ、ユニバーサルデザインにも対応していないため、利用者に不便をかけることもあります。更に、「松本城及びその周辺整備計画」や「松本まるごと博物館構想」の実現のためにも、移転新築が必要な時期にきています。

また、全国的にみても、社会の成熟化とともに生涯学習のニーズは高まりを見せており、本市でも市民による地域学習・研究活動が活発に行われています。このことは、松本の探求であり、それらを後世に伝承していくことばかりでなく、活力ある地域の有り方を考え、つくり出していく活動ともいえます。

開館以来100年を超える松本市立博物館は、その活動実績と成果を継承するとともに、松本まるごと博物館構想の基幹博物館として、また次の時代を先取りする松本オリジナルの地域博物館として、「ひとづくり」「まちづくり」をめざしていくことがこれからの使命と考えます。

そのために、松本市基幹博物館基本計画が昨年度に策定されました。その内容を以下のとおり紹介します。

1 概要

【目的】

「ひとづくり」「まちづくり」

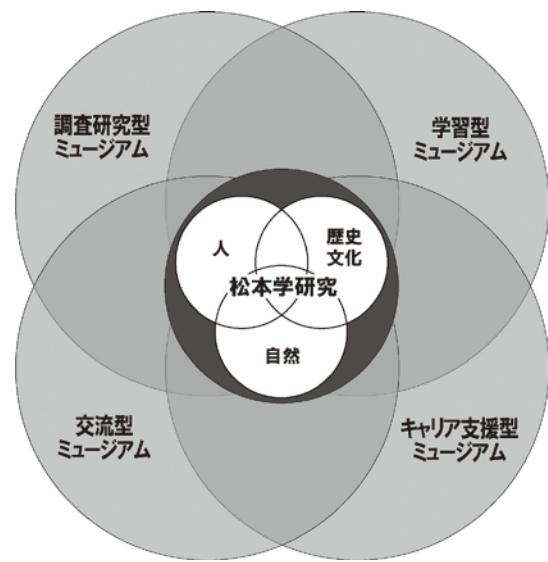
郷土松本を担うひとをつくる

- ・郷土松本の〈人〉〈歴史・文化〉〈自然〉を理解するひと
- ・郷土松本に愛情と誇りをもつひと
- ・郷土松本の未来を考え、行動するひと
心豊かに夢がふくらみ育つまちをつくる
- ・明日を担う子どもの生きる力を育むまち
- ・いつでも楽しく学べる場と機会を提供し、人と人とがつながるまち
- ・多様で特色ある豊かな文化芸術が花開くまち
- ・熱気と活気にあふれ輝くまち

2 基幹博物館の性格・機能

従来の博物館は見るだけの「展示重視型」でしたが、これからはモノに触れたり、人と人が交わったりするための「活動重視型」への転換が博物館には求められています。

基幹博物館には、次の4つの性格をもたせます。



【性格】

●調査研究型ミュージアム

学芸員が中心となって、松本の〈人〉〈歴史・文化〉〈自然〉を切り口とした松本学※の調査研究を推進します。

※松本学…松本市域で培われた〈人〉〈歴史・文化〉〈自然〉の切り口で、地域社会の移り変わりや人の生き方を総合的に学び、松本の未来を創造する学問をいいます。明日の郷土松本を担うひとづくりと、市民が暮らしやすいまちづくりを目指して博物館を拠点に協働で学習します。

●交流型ミュージアム

市民が集い、活動を通して交流する博物館とします。地域間交流、世代間交流など、人と人との心通う交流を実現します。

多くの観光客にとって、ホスピタリティーにあふれたビジターセンターとして機能し、観光客と市民が触れ合う場とします。

●学習型ミュージアム

松本学の振興や、松本まるごと博物館の活性化、市民個人の学習機会の提供や大学等研究機関との協力・連携体制を構築します。

●キャリア支援型ミュージアム

個人のキャリア※に資するための学習・交流の場であるとともに、達成感や生きがいを感じ、自己実現に向けた歩みを進められるよう支援します。

※キャリア…人の生き方、自己実現の方法、生きることや働くことの価値付けなどのことです。

基幹博物館では、現在の機能を再編し従来のものに加え、交流・情報交換及び集客・観光の新たな機能を付加します。

【機能】

●収集・保存

松本学が対象とする〈人〉〈歴史・文化〉〈自然〉に関する資料とその情報を収集・保存の対象とします。

収蔵庫の温湿度管理を整え良好な保存環境下で管理します。また収蔵資料の情報のデータベース化を更に整え、ウェブサイト上でも公開し幅広い人々に情報を提供します。

●調査・研究

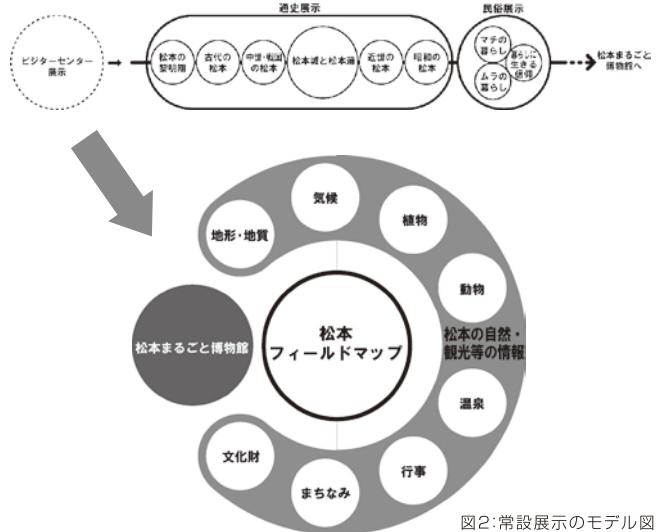
松本学が対象とする資料と、博物館学に関する事業やキャリアなどを調査・研究の対象とします。

学芸員による調査・研究を基本としますが、市民や大学などの研究機関とも協働、連携して共同研究し、その成果は市民・地域に還元します。

●展示・学習支援

展示は、常設展示、企画展示・特別展示、市民ギャラリー展示、移動博物館の4種類とします。

常設展示には現状の機能に「松本まるごと博物館」の導入展示としてビジターセンター展示を加えます。



企画展示・特別展示は、他館との共同展や館のコレクションなどを特別公開します。

市民ギャラリー展示は、市民団体などによる研究発表やワークショップなどの活動やその成果を発表する場とします。

移動博物館は、学校や公民館、店舗などを会場として小型展示会を行います。

学習支援事業は、さまざまな世代の要求を満たすようなプログラムを用意します。

●交流・情報交換

地域間交流、世代間交流、市民と観光客の交流など、人と人との接する機会を増やします。

情報交換事業は、ウェブサイトを活用し、教育機関や

企業、国内外の博物館などとのネットワーク構築を進めます。

●集客・観光

本市を訪れる観光客が立ち寄って市域の観光資源を概観できるビジターセンター機能を重視するとともに、観光業界との連携も深めて宣伝に努めます。

ミュージアムショップでは、特に「まる博ブランド」を開発するなど、オリジナル商品の充実を図ります。同時に観覧の余韻を楽しめるよう、レストランやカフェといった附加価値のあるスペースも設けます。

3 施設整備

施設のデザインは、国宝松本城などの歴史的景観と調和する松本らしいものとし、建築物としての魅力も充分にもったるものとします。

現状では不足している収蔵スペースを十二分に確保するとともに、新たにフリースペースの充実にも配慮します。

4 管理運営体制

公立博物館としての公共性を維持しつつ、多様なニーズに応えられる体制づくりをします。

●市民協働

職員が運営するばかりではなく、市民学芸員、ボランティア、友の会会員等と協働して博物館事業の運営ができるよう環境整備を進めます。

●事業活動評価

博物館協議会を組織し、定期的に自己評価・外部評価を行い、常に事業の改善に努めます。

●利用者の拡大・支援

従来の敷居が高いというイメージを払拭し、各世代がそれぞれの目的で利用しやすいよう配慮します。

●学芸員の適正配置・資質向上

それぞれの職員が充分に能力を発揮できるよう、専門化・分業化・協業化の見直しをします。

おわりに

この計画は、主に新しい博物館のソフト面についてまとめられています。そして既にそのいくつかの項目は実践に移されています。

今後はハード面の整備が課題です。経済その他の事情を勘案しながらも早期に建設場所を選定し、中心市街地の活性化やひとつづくり・まちづくりに寄与する基幹博物館が整備できるよう、市民の皆さんのご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。

(主査／関 政雄)

子供たちの疑問に学ぶ 1

展示室で展示解説をしていると、来館者の方からいろんな質問や意見が寄せられます。中でも特に、子供たちからの質問にはいつも新鮮な驚きがあります。今回は、子供たちの素朴な疑問から私たちが勉強させてもらうことになった事例を紹介します。



七福神と宝船

上の写真は、民俗展示室に展示されている、七福神人形と宝船です。弘化4年（1847）から昭和の初めころまで本町5丁目で、商都・松本の賑わいを見つめてきた人形たちです。江戸時代末期から大々的に飴市が行われていたことを知ることができます立派な宝船なのですが、子供たちにとっては、その大きさと七福神の容貌が、興味の対象となるようです。

この七福神と宝船を見ながら、子供たちはいろいろなことに気づきます。そして、気づいたこと、疑問に思ったことを、展示室にいる私たちにうれしそうに語ってくれます。「七福神なのになんで6人しかいないの?」、「この船は海で使っていたんですか」といった質問や、「あっちと双子のやつが乗ってる（※1）」、「すげえ！妖怪がいる（※2）」というような話まで、その高い感受性で、多くのことを感じ取っているようです。そんな、子供たちの感じる多くの思いには、答えに窮してしまうものもあります。



七福神人形 大黒天



本町2丁目 福神人形(大黒)

市外から社会見学で来館した小学生の質問です。「宝船の下にいる動物は何という動物ですか？」と質問をされました。たしかに宝船の下には写真のような動物の像があります。しかし、恥ずかしながら私の知識不足もあり、このときはこの質問に対し明確な答えを返してあげることができませんでした。このままではいけないと思い、この動物について調べてみました。



この動物の姿を見てみると、龍の頭と亀の体を持っていることが分かります。さらに宝船とセットになっていることを考えると縁起の良い動物のはずです。このことをふまえて調べてみると、「名は体を表す」の言葉どおり、龍亀という神話上の動物であることが分かりました。ある風水の書籍では、「亀から龍へと生まれ変わる吉兆を象徴している龍亀は、亀のもたらす保護の力と龍のもたらす万能の力を併せ持つため、財を途切れることなくもたらすものとして崇められている」と説明されています。また、他にも邪気を払うなどの力を持つ龍亀は、福の神を一堂に会した宝船にはうってつけの動物だったのです。

以上のように、子供たちのちょっとした疑問から、資料について調査する機会を得ることができます。子供たちとのコミュニケーションに限らず、博物館を訪れる方たちと相互に情報の共有ができれば、知識はより深いものになっていくと思います。そんなことを目指して、今日も展示室へ。

(学芸員／一ノ瀬幸治)

*1 展示室には左の写真のように大黒様の人形が2体あります。これをみて双子と想像したようです。

*2 福禄寿のことを妖怪にしてしまったようです。確かに他の七福神に比べると独特の容貌をしていますが…。

第3回「明治の授業を体験しよう」

旧開智学校では、平成19年度より「明治の授業を体験しよう」という講座を実施しており、3回目を迎える今年は10月4日（日）に行いました。

この講座は、旧開智学校の教室で明治期に行われていた学校の授業を体験することにより、当時の様子を知り、これからの教育について考える機会となる場を目指して開催しています。

今年度の授業内容は、当時の松本や長野県内のことについて学んでいた「郷土誌」と、現在の音楽にあたる「唱歌」の授業を行いました。郷土誌では松本の井戸と水について学び、唱歌では明治の頃から歌われている水にちなんだ歌を当時の言葉使いで歌うという内容です。



本番当日にむけて、井戸の調査、授業で使う説明パネル等の作成に取りかかりました。学習用の説明パネルはふだんの展示用のパネルとは違います。年表の作成に際しても、展示用の年表は様々な出来事を見やすく作成するのに対して、今回の授業で使う年表は、年代と授業に関わりの出来事の2点のみという、シンプルで教室の中でも見やすい年表にしました。こうしてパネル作成をはじめ、打ち合わせ、授業のリハーサル等を重ねて、本番当日を迎えました。

本番では校長役、訓導役の先生方は着物を着て授業を行いました。参加した生徒の皆さんは開智学校にある昔ながらの机とイスを使って授業を受けました。用意した竹棒で教壇をたたくと生徒の皆さんの顔つきが変わり、また普段の学校では聞くことのない口調での授業の進み方に初めは少しとまどっている様子でした。

しかし、1時間目の郷土誌の授業が進むにつれて緊張もとけ、先生の質問に次々に手をあげて発言する子が沢山見られました。また、松本の井戸に関する知識も豊富で、授業で扱わなかった井戸に

ついても知っている子も大勢いました。市立博物館に展示されている江戸時代に使われた木製の水道管の実物を見たり触れた時には驚きの声があがり、当時の人達と水との関わりについてもしっかり学んだようです。



2時間目の唱歌の授業では、「春の小川」、「われは海の子」の唱歌を歌いました。「春の小川」は、これまでに3回歌詞の一部分が変わっており、現在と当時の歌詞でそれぞれ歌いました。今ではほとんど使われない言葉使いにもすぐ慣れて歌え、また「われは海の子」は見学している方々を含めて全員で歌い、昔を思い出している方も見受けられました。



3時間目の授業は昔の遊びを行い、あやとりと紙飛行機作りを楽しく学びました。そして終了式では一人ひとりに修了証書が手渡され明治の授業が終わりました。普段の学校とは違った雰囲気での授業でしたが、参加した皆さん一人ひとりの良い思い出になったと思います。

来年度は今年扱った授業とは別の内容もとりいれるなど、今年の経験と反省を生かして明治の授業の開催に取り組みたいと思います。

（旧開智学校管理事務所学芸員／和田裕也）

よみがえる！世界に誇る日本の至宝 —屏風絵複製にみるデジタル技術の粋—を開催しました

市立博物館では、8月1日から30日まで原作品が国宝、重要文化財に指定されている複製屏風絵展を開催しました。

屏風絵は、デジタル技術と京の伝統工芸士により複製された作品ですが、作者は六曲で18億画素ともいわれる高度な先端技術で出力された和紙に京都西陣織に関わる伝統工芸士が、匠の技を駆使



ギャラリートークを楽しむ

して金箔を施し制作されたものでその迫力に圧倒されました。なお、国宝や重要文化財に指定されている原作品は劣化を防止するため、年間60日間に公開が制限されています。



スケッチを楽しむ子供たち
※子供たちが描いたスケッチ画は原作品所蔵者に贈呈しました。



伝統工芸士による金箔施工の実演

ガイドコーナー はんてんぼく

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

企画展 「火の用心と消防」

会期 11月15日(日)～12月20日(日)
開館時間 午前8時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
会場 2階特別展示室
観覧料 大人200円(180円)・小人100円(90円)
※()内は20名以上の团体料金。

松本民芸館から ☎0263-33-1569

企画展 「華やかさの冬 玩具展」

会期 12月8日(火)～平成22年2月21日(日)
観覧料 通常観覧料
(大人300円・中学生以下無料)
内容 その時代や生活を映し出す郷土玩具、
今回は、松本押絵雛、中野の土人形を
はじめ、福島県三春の張子など全国各地の玩具を展示します。
丸山太郎の蒐集した干支の動物達も魅
力的です。ご期待ください。

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

ギャラリー企画展

「地名校設立90周年記念展」

日 時 11月23日(月)まで
会 場 旧制高等学校記念館ギャラリー

第75回 サロンあがたの森

日 時 11月14日(土) 午後1時30分から
会 場 あがたの森文化会館1～5教室
内 容 話題／旅人の夜の歌—ゲーテ—
話題提供者／小塩 節氏
(松本高校出身・ドイツ文学者)

※上記、いずれも入場無料です。

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

空穂生家将棋教室

日 時 11月7日(土) 午後1時～4時
会 場 窪田空穂生家
対 象 小中学生
講 師 日本将棋連盟会員
受講料 無料
申込み 当日までに窪田空穂記念館へ

短歌講座

日 時 11月8日(日) 午後1時50分～4時
会 場 窪田空穂生家
講 師 来嶋靖生氏
受講料 1,500円
申込み 事前に窪田空穂記念館へ

企画展『戦争と空穂』

特別講座 「万葉集入門～万葉人の喜びと悲しみにふれる～」(全3回)

日 時 11月11日、18日、25日(水)
午前10時～正午
会 場 窪田空穂生家
講 師 清沢由之氏
受講料 各回100円
申込み 当日までに窪田空穂記念館へ
内 容 戦時中、空穂は出陣する学徒に代わって勉強しようと、「万葉集評釈」に打ち込みました。今回はその「万葉集」について学びます。

空穂生家百人一首教室

日 時 11月21日(土)、12月5日、19日(土)
午前10時～正午
会 場 窪田空穂生家
対 象 小中学生
講 師 無料
申込み 当日までに窪田空穂記念館へ

山と自然博物館から ☎0263-38-0012

写真講座 小口和利の山岳写真

「故郷の山、世界の山」

日 時 11月28日(土) 午後2時～4時
会 場 松本市山と自然博物館 2階講座室
講 師 小口和利氏
(NHK文化センター松本教室講師)
対 象 一般 参加費 200円
定 員 30人(定員になり次第締め切り)

休館のお知らせ

*はかり資料館 ☎0263-36-1191

改修工事のため

期 間 11月10日(火)～平成22年4月28日(水)

*松本市四賀化石館 ☎0263-64-3900

冬期休館

期 間 12月1日(火)～平成22年1月31日(日)

*安曇資料館 ☎0263-94-2134

冬期休館

期 間 11月10日(火)～平成22年4月28日(水)

あとがき

今夏、表紙の消防ポンプが新たな資料に加わりました。昭和9年生まれで75歳ですが、手入れと清掃を兼ね運転したところ、ご覧のとおり可動しました。これもひとえに入山辺の北入の皆さん、大切に管理し手入れをかかさなかった故です。さすが、真鍛製で頑固な造りです。お披露目はこの15日から。企画展でお待ちしています。(O.K.)

あなたと博物館 No.165

発行年月日／平成21年11月1日

編集・発行／松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133

URL : <http://www.matsu-haku.com>

e-mail : mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp

印刷 川越印刷株式会社